

平成28年度 学校自己評価表

(計画段階・実施段階)

福岡県立八女農業高等学校長 印

NO. 1

学校運営計画 (4月)			評価 (3月)	
学校運営方針	教育基本法及び学校教育法に基づき、人格の完成を目指し、農業の意義や役割の理解と、「農業に関する将来のスペシャリスト」として必要な専門知識・技術を習得させる。 校訓「自律・創造・協同」を旨としながら、より良い校風の樹立に努め、「厳しさや苦しさに耐える自律心」、「感謝と思いやりの心」、自己実現のため必要な「創意工夫する創造力」を育成し、農業及び地域産業並びに地域社会の発展と活性化に貢献できる人材づくりを目指す。			
昨年度の成果と課題	28年度の重点事項	具体的目標		
生徒の規範意識が高まって、授業規律や校内美化も徹底し、学校が大変落ち着いた。卒業後の進路も100%達成し、教育活動の成果が着実に表れた。地域との連携も更に充実し、学校への評価も高まった。今後は、地域農業の後継者育成の観点からも、学校を挙げて生徒募集に取り組み、中学校訪問やHP等を活用した広報に努める。	生徒の確かな学力を育成し、農業に関する将来のスペシャリストとして必要な専門知識・技術を習得させる。	○学習目的の明確化と規律ある授業を展開し、日常の授業に対して熱心に取り組む態度を育成する。 ○安心して授業に取り組む学校環境を作る。		
	生徒一人一人を見据え、学習への積極的な取組と活性化を実現するため、「基礎・基本の徹底」を図る。	○教科・科目全領域において基礎学力の定着と充実に向け、授業の工夫改善を図りきめ細かい指導を行う。 ○少人数クラス、習熟度別学習の充実を図り、生徒一人一人の学習能力向上に努める。		
	自律心と思いやりのある心豊かな人間形成に向けた取組を推進し、人権意識の向上やいじめの撲滅を目指す。	○挨拶等の礼儀作法、時間厳守、掃除の徹底、服装等の基本的な生活習慣を確立するための指導を全職員で取り組む。 ○全職員の情報網を活用して、いじめの発生防止と早期発見に努める。また、スクールカウンセラーや訪問相談員、スクールソーシャルワーカーの活用を図り、悩みを抱える生徒等への教育相談機能を活性化させる。 ○特別支援教育の充実に向けた校内体制を活性化し、生徒の支援体制を整える。		
学校の教育活動全般において、人として正しく判断し、行動できる生徒を育成する。		○生徒会活動及び農業クラブ活動の活性化を図り、農業高校の特色を活かした取組をとって実践力のある生徒を育成する。 ○部活動加入を推進し、併せて学校活性化を図る。		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価 (3月)	次年度の主な課題
学校経営	特色ある教育課程を編成し、学校教育システムの機能化を図る。	企画運営委員会を中心に、各分掌の連携を図る。 各分掌の年度重点目標を明確にし、実施後検証する。		
	危機管理体制を強化する。	危機管理マニュアルを徹底し、非常時の危機管理に対する意識向上を図る。 教職員の不祥事防止に向け、研修会等を積極的に開催する。		
	学科の教育内容・指導方法の充実を図る。	教育内容の充実に向け、八女農アクションプランの実現を目指す。 地域・外部機関との連携を推進し、学科の教育内容を充実する。		
進路指導	生徒一人ひとりの希望進路を把握し、情報の共有化を図る。	3学年担任との会議を定例化して学年・学科、関係機関とも情報を交換する。 3年生就職希望者に進路指導課面談を実施して求人開拓を検討する。 活用しやすい進路室への改善と生徒のマナー向上に努める。		
	担任・学年・各科と連携して組織的な指導の充実を図る。	全職員の協力による企業訪問を実施して早期内定(12月末90%)を達成する。 進路指導強化月間を設定して就職の一次内定率80%以上を達成する。 上級学校別の支援指導(3学年)を実施し、希望実現100%を達成する。		
	3年間を通じた進路指導の検討と充実に努める。	本校キャリア教育の再検討および進路行事の見直しを進める。 「進路のしおり」の改善に努め、活用を推進する。 課外授業の参加者を増加させることや、資格取得を推進する。		
教科指導	学習意欲を高め、学力の向上を図る。	学期ごとにシラバスを活用し、各科目の学習目標および学習内容、評価方法を理解させる。各学級にシラバスを常置し、生徒がいつでも確認できるようにする。 朝読書・学習により、基礎学力の向上を図る。 考査前学習の定着を図る。		
	規律ある授業を実施する。	朝読書(SHR)、始業、終業時間を厳守し、規律ある授業を行う。 机、椅子の整理、整頓を行い、学習環境を整え、授業を開始する。		
	専門高校の特色を生かした教育課程について協議する。	新学習指導要領の完全実施を受けて、各学科の特色を生かしたカリキュラム編成の検証を行う。 4年制大学進学(推薦入試を利用した国立大学農学部等)の指導を充実する。		
生徒指導	学校教育全般を通じて、生徒指導を実践できるように取り組む。	日頃から風紀指導を行い、規範意識の向上を図る。 月に1回の全校集会での指導を行う。 帰りのホームルームで整理整頓と身だしなみを整えさせる。 全職員による、服装・頭髪・着こなし指導を徹底する。		
	生徒指導規定等に従い、指導内容や方法を、全職員が共通認識のもとに協力して指導できるようにする。(組織的・計画的・継続的指導)	生徒会による集会での主体的な活動を促進し、挨拶運動を推進する。		
		生徒会新聞を発行する。		
		各種委員会活動の活性化を推進し、生徒会行事を成功させる。		
		交通事故「0」を目指した活動を展開し、免許取得規定の徹底を図る。		
	アルバイトや選挙運動等の許可申請・規律の徹底を図る。			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
保健指導	生徒の健康状況の把握・理解および健康に関する意識高揚をめざす。	生徒の健康状況の把握および改善に向けた取り組みを進める。 あらゆる領域及び場を活用し、生徒に健康の重要性を正しく認識・理解させ、意識高揚を図り、健康づくりへの取組・改善をめざす。 生徒の健康状況に関する情報をすべての教職員が共有し、生徒の学校生活を正しく理解し、常に適切に指導し、改善に向けて支援していく。 健康教育推進事業(スクールカウンセラー制度・訪問相談員制度)を、生徒・保護者へ周知し、生徒・保護者の相談や事後指導に細かく、適切に対応する。		
	安心・安全、快適な教育環境をめざした積極的な取り組みを実施する。	防災教育への取組と本校防災マニュアルの適切な活用を推進する。 薬物乱用防止講演会への取り組みを充実させる。 本校薬剤師による教育環境の調査・点検及び改善に向けた取組を徹底する。		
	委員会活動(保健委員会・美化委員会)の活性化・特色化を図る。	保健委員会による保健教育の啓蒙活動(保健便り等の発行)を推進する。 美化委員会による校内美化の推進・徹底(校内美化コンクール等への取組)を図る。		
庶務・広報	式典・行事等の企画・立案及び円滑な運営を図る。	学校運営に係る企画・庶務全般の運営(資料の印刷・管理等)を円滑に行う。 防火・防災訓練の企画・立案及び円滑な運営を図る。		
	P T Aとの連携を図り、P T A活動を円滑に行う。	P T A総会、地域懇談会等の企画・立案及び円滑な運営を図る。 P T A各種委員会(生徒指導・広報・研修・学年)活動全般への支援を行う。		
	広報活動を活性化し、中学生や地域にアピールする。	広報誌等を発行し、本校の活動をアピールしていく。 各科と連絡を密にし、情報を収集しマスコミ等に適宜発信していく。		
研修	職員研修全般の企画・立案及び円滑な運営を図る。	授業や生徒指導のスキルアップを目指し、校内研修を推進する。 センター専門研修など外部からの研修案内を職員に周知徹底する。		
	研究紀要「陽暉」を発刊し、研修内容の充実を図る。	職員の校内・校外における研修の成果を記録し、共有して資質向上の一助とする。 研究紀要「陽暉」に、多くの先生方の成果を掲載し、意欲の喚起に努める。		
	教育実習の受け入れに対し、的確な計画及び、サポートを行う。	教育実習の実施に伴う事務手続を正確に行う。 教育実習(9月・1名)が、充実した取組になるよう取り計らう。		
第1学年	校則は守らないといけないものだとして理解させる。	風紀指導を学年全職員で行う。特に進路と絡めて風紀指導の大切さを教える。 教師自ら時間に厳しく行動し、時間の厳守を徹底する。		
	全員3年後に進路を決めて卒業させる。	学習に対する取り組みが不十分な生徒を学年全体で指導する。 個人面談・HRを利用し生徒に進路情報を提供し、意識を高める。		
	部活動・生徒会活動・農業クラブ活動を推進する。	部活動が進路決定に有利に働くデータを生徒に示し、部活動に加入させる。 生徒会活動・農業クラブ活動に積極的に取り組むよう勧める。		
第2学年	学習環境の整備に努める。	各考査に向けた学習の取組を教務と協力して実施する。 全員進級に向けて、情報の収集と適切な指導を強力に進める。		
	進路決定に向けた取り組みを充実させる。	個人面談を計画的に行い、生徒個人の実態把握に努める。 進路指導部と協力し、生徒の進路意識の高揚に努める。		
	生活指導、風紀指導を充実させる。	問題行動につながる内容については情報を共有し、クラスを超えて取り組む。 自転車、バイク通学生の安全確保を、生徒指導部の協力を得て、充実させる。		
第3学年	基本的な生活習慣の確立を図る。	服装・髪型指導、挨拶の励行、言葉遣いの指導を徹底する。 校内美化活動及び学習環境づくりの指導を徹底する。		
	進路実現の取り組みを充実させる。	進路実現のため各種検定・資格取得を積極的に推進する。 進学者、特に国公立大学受験者への指導の徹底を図る。		
	学校行事への積極的な参加促進を図る。	生徒会活動・農業クラブ活動・八女農祭の企画運営を充実させる。 部活動等において中堅的な活動の充実を促進する。		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
農務部運営	農業クラブ活動の充実に努める。 農業教育の理解と学校PRを行う。	農業クラブ活動を推進する。 各種競技活動の推進に努める。		
		農業教育の理解に努める。 広報活動を推進する。 インターンシップ事業を充実させる。		
	農場施設設備・備品の改善と農場の環境整備を充実させる。	機器・器具の整理・整頓及び有効活用、充実した備品の購入を行う。 授業に活かせる農場・実験室・実習室の整備に努める。		
		農業クラブ活動の指導を強化して専門的な能力を高める。 生産物の品質を高め生産から流通までの系統的学習を通じた経営教育を充実する。 実習用機械や実験分析機器等の学習教材の充実を図る。		
生産技術科	地域に貢献できる教育活動を推進し、学科のPRを強化する。	校外外販実習の充実や小・中学生への体験授業等で地域に根ざす教育を実践する。 出身中学校へ積極的に生徒と訪問し、交流を深め科の学習内容や取組を知らせる。		
		農場を常日頃から整理・整頓して、外部にアピールできる環境を作る。 学科職員で組織的に指導を行い、規範意識や職業意識を高めさせる。 進路指導部と連携し、希望進路に応じた個別指導を計画的・積極的に行う。 職業資格の取得率向上に向けて指導を強化する。		
	希望進路実現に向けた組織的な指導を行う。	教科指導を通して先進農家、農業関係機関等との連携を図り、先進技術の知識や技能の向上に取り組む。 農業生産物の充実と付加価値のある農作物生産を構築する。 プロジェクト学習を積極的に取り組み、学習意欲の向上を図ると共に自主性を身につけさせ、生徒の探求心を引き出す。		
		毎時の授業において服装、頭髪、挨拶、言葉遣い及び時間厳守等の指導を行い、規律ある学校生活を送らせると共に欠席、遅刻、早退の改善を徹底させる。 遅刻、早退、欠席をした生徒には、居残り実習を行いながら生徒とのコミュニケーションを図る機会とする。		
システム園芸科	教育内容の充実、指導の工夫・改善を図る。	資格取得を積極的に取り組み、多くの取得を目指しスキルアップを図る。 興味・関心を引き出す授業を展開する。		
	基本的生活習慣の確立並びに風紀指導の充実を図る。			
	基礎学力及び学習意欲の向上を図る。			
生物利用科	学科の特色を活かした農業教育の実践と主体的な学習態度の育成を図る。	プロジェクト学習の積み上げによる課題解決能力の育成と農業クラブ活動の充実を行う。各種競技会で2個の最優秀賞を獲得する。 資格取得の推進と八女農ブランドの積極的な開発による農場予算の増収を図る。		
	社会の一員としての生活指導と安全指導の充実・徹底を図る。	週1回の定例会議での情報の共有化を図り、教師間で生徒指導目線を一致させた指導を行う。 インターンシップ事前指導の徹底と受入先の開拓を推進する。企業とのネットワーク作りに努める。		
	開かれた学校作りの推進と地域との連携・PR強化を図る。	北山農場における動物科学専攻施設の地域開放(動物園化)と出前授業・開放講座地域行事への参加等の意欲的な活動の定着を図る。 HPや学校便り、生物利用科便り、道の駅や販売所のパネルで積極的に発信し、生物利用科の取り組みや学習内容を地域に理解してもらう。		
生活科学科	基本的生活習慣・社会的マナーの確立を図る。	挨拶や言葉遣い、高校生らしい服装や頭髪等、清潔感のある身だしなみの徹底に努める。 毎回の授業の開始・終了時の挨拶を徹底させる。 遅刻・欠席の届け出、事後指導の徹底を図る。		
	学習成果を進路に結び付ける。	農業・ヒューマンサービス・フードデザイン分野との連携を図る授業の展開に努める。 プロジェクト学習の成果をまとめた発表会を行い、科学的思考と問題解決能力を育成する。 「地産地消」「圃場から食卓まで」の取組を進めるために諸機関と連携する。		
		学校行事を学習発表の場と考え取り組む。	各行事への積極的な参加を奨励する。 各行事において規律や団結を学ばせ、リーダーを育成し、学科としての協力・生徒間の絆を深める。	